カトリック幟町教会報
平和の鐘

編集・発行

2006年8月号　№374

カトリック幟町教会（宣教企画部 広報係）
〒730-0016
広島市中区幟町4番42号
TEL　(082)221-0621
FAX　(082)221-8486
http://www.nobori-cho-catholic.com

主任司祭　澤野耕司神父
助任司祭　木村博明神父
　バンガンスベルゲ神父
　金炫勇(キム・ヒョンヨン)神父
シスター　小野島照子

インファンタ教区を訪れて

フィリピン、インファンタから教わる

金炫勇(キム・ヒョンヨン)神父

我々はフィリピンのことを聞くと、与えることを先に考えてしまう傾向があって、フィリピンから何かをもらうというのはあまり考えない。それは、我々が生きている社会が、富を第一として考える資本主義から、知らない内に受け入れた見方であり、先入観ではないか。今回のフィリピン、インファンタへの訪問はいろんなことを考えさせる旅であり、大事なものをいただいた恵みの時間であった。

マニラ空港に降りて、外に出てきたら、迎えたのは暑い太陽であった。気温はどのくらいなのか分からないが、とにかく暑くて、じめじめする。インファンタはマニラから距離的には 150 キロ離れているが、山々を越えて行くため、5時間もかかった。

インファンタ教区は人口約43万の内39万人がカトリックであり、司教2人、司祭32人、小教区18の小さい教区である。

Quezon 州と Aurora 州がインファンタ教区の管内である。1947年にカルメル会士により宣教が始まった。1973 年にマニラ大司教区の Francis Lucas 師他5人の新司祭が叙階され、インファンタ教区に受け入れられてから、初めて教区司祭が司牧するようになった。

5 時間もかかって、インファンタに着いたら、もう夜になり、その日はホームステイ先にいって食事をしながら、いろんな話をした。みんな非常に明るくて、生き生きしている家族であった。いろんな話をしながら、彼らの表情を見ながら、だんだん落ち着いていて、フィリピンについてから、ずっと感じてきた不便さがすっかりなくなってしまった。なぜ、物も足りないし、貧しいのに、こんなに幸せであるのか。

２日目は会議があって、会議の最後には引退している Julio Xavier Labayen 司教様のお話を聞いた。僕はその話に心を打たれ、泣いてしまった。僕は人の話を聞いて感動したのが久しぶりであった。

Julio Xavier Labayen 司教さまのお話をここで少し触れると、“人間を除いた経済発展・成長はどういう意味があるのか、先進国だと自慢しているところを見ると大きな何かを失っているところが多い。それは、人間性であり、分かち合う心であり、ともに生きていく余裕である。”

そうだ、僕がホームステイ先の家族から感じたつかみにくい何か（落ち着くもの）は、その人間性であり、 分かち合う心であり、ともに生きていく余裕であったに違いない。今回、僕は久しぶりに素直な人々に会い、幸せな日々を暮らしてから、幸せになって日本に帰ってきた。

フィリピン・インファンタ台風被害救済チャリティコンサート

日時　8月26日（土）16:00 開演
場所　エリザベト音楽大学セシリアホール
入場料　1,000円
問い合わせ　カトリック広島司教区本部事務所
　3姉妹教区委員会チャリティコンサート係
　TEL　221－6017

楽しかった夏期学校

7 月 22 日から 2 日間、日曜学校では夏期合宿を行い、普段の授業では学べない貴重な経験をしました。ここでは、参加した子どもたちの作文の一部を紹介します。

「かき学校」

小１　M.S

たのしかった。たのしかった。
バーベきゅうとはなびとﾌﾟｰﾙとろうそくづくりがたのしかった。
9 時にねた。6 時 15 分におきた。
きしいパパがおこしてきた。
ラジオたいそうをした。
ラジオ体そうがおわったあと、ごはんをたべた。レーズンパンとバターパンとソウセージたべた。しょくごにバナナをたべた。

「夏期学校」

小４　S.Y

一番最初にしたのが、歌です。ぼくはいっしょうけんめいに歌いました。

次に、キリストの光についてやりました。ぼくたちの班は、太よう星やさしいあたたかいでした。

次は、よしだママがよんだ「大きな木」を聞いて、木がかわいそうだった。なぜかというと、木がいっぱい切られてきりかぶになったからです。

そしてその後で、ろうそくを作りました。青い人間の形をしたろうそうそくやハトの形をしたろうそくなどありました紙コップの中に形のあるそうそくを入れて、ろうをいれました。それはとてもきれいでした。

今回の夏期学校はみんなとあえてうれしかったしたのしかったしハッピーな気分で元きにできました。

「イエスは世の光」

小６　A.S

7 月 22 日から 23 日、2 日間かけて夏期学校がありました。夜には神父様が光について聞きました。私は自分達が光を必要にしている事がどれだけわかりました。私は神父様の話を聞いてみると、神話の話みたいな話はなんとなく聞いていた事がある話がたくさんありました。私は神話などの話が好きなので神父様の話を興味深く聞いていました。私は神父様の話を聞いて光と言う事を深く知りました。

もっと知りたいと気持でいっぱいでした。神父様の話が終わると、花火がありました。みんなとても楽しそうでした。花火をとてもきれいで光がみんなのみんなの顔を明るくなっていました。みんなは光というのはいろいろ想像していたけど、私は人それぞれだからいいじゃないかっと思いました。

私はたぶん光というのはみんなの笑顔だと思いました。

夏期学校のテーマ

中２　Y.T

僕は、今回のテーマの「キリストの光」について考えたい事がありませんでした。なので、テーマについて考える時にあまり浮かんで来ませんでした。なのに、小学生のみんながすらすら答えられていたので、とてもびっくりしました。僕もだんだん思いつくようになったので、よく考えられるようになりました。僕が思いついたのは、キリストの光は、「やさしい」、「とても明るい」、「あたたかい」などでした。みんなは、「まぶしい」、「美しい」なのでみんな想像力が豊かだなあと感心しました。

今、あらためて考えると、キリストの光は「どこにでもあるけど、みんななかなかわからない。けど、いつもあたたかくみ守っているもの」だと思います。僕は、それを知らない人たち（キリスト教をあまり知らない人たち）に伝えてあげたいと思います。

沖に漕ぎ出そう

幟町教会の活動を担う各部の紹介をしています。一人ひとりが「沖に漕ぎ出す」ため、興味を持たれた方や参加を希望される方は、各部員や受付まで、ご連絡ください。

典礼部

典礼部は、全員が参加する生き生きしたミサを充実できるよう、活動しています。毎月 1 回部会を開き、主任神父と各係が集まって、ミサの聖歌の決定、ミサの打ち合わせ、各係の連絡調整を行っています。なお、各係は、次の通りです。

典礼係：典礼暦に応じて、ミサを始めとする式典を総合して計画・運営します。

祭式係：冠婚葬祭の準備・実施を行います。

香部屋係：祭服及び香部屋の準備します。

聖歌隊係：ミサなどで歌を歌います。

侍者係：侍者を行います。

聖体奉仕者：ミサ中の奉仕者及び病人など訪問奉仕を行います。

聖歌は、毎月第 1 週には典礼聖歌から選曲しています。そして、年間主日のテーマ、季節にあった歌を織り交ぜて選んでいます。しかし、たくさん歌いたい歌、歌っておきたい歌があります。そこで、聖歌合本を改定し、充実させていきます。

歌うことだけでなく、ミサの様々場面で積極的に行動していただけるよう提案、改善を行います。

さて、冠婚葬祭でお手伝いしていただける方を募っています。結婚式は早くから予定が決まっております。特に、通夜、葬儀のお手伝いは急なことです。多くの方に支援していただければ一人ひとりが楽になると思います。よろしくお願いいたします。

「ミサはそれ自体が、教会の宣教のわざのひとつなのです」　　（H．K）

みことばを味わい、人を知り･･･

始まった「分かち合い」の試み

7 月 16 日、第 1 回のミサ後の分かちあいが始まった。参加人員は 28 人で、それが少人数か多人数なのかは、意見の分かれるところであろう。関わる者としては勿論、大人数でそれぞれが心に響いた想いや、受けた感想などを活発に出し合って、気がつけない視点や又、普段伝わって来ない人柄など、知っていく良き機会だと楽しみにしております。互いの違いを際立たせるのでなく、キリストに従う私達が、より活発で互いを理解し合っていく活動の場が、各部活やコーヒサービスの場であっても、この幟町教会でさらに対話が発展し、人間理解を共有しあう場であることを願って止みません。人前での発言をコンパクトにまとめ上げる事に気後れする方も確かにおられるでしょう。しかし、自分の思いを他者に正しく伝えて訓練して行く事は、自分でも気が付けない傾向性なり盲点などが多々有るのではないでしょうか？ともあれ、これも一つの宣教的な雛形の一つとして発展していくならばと思います。私たちの心情と精神はもっとキリストによって共有化すべきである、という前提に立って。

宣教企画部研修係　M.M

次回の「みことばの分かち合い」
日時：8 月 27 日　9：30 ミサ後
場所：マリアホール
福音の箇所：マルコ福音書 2 章

『 講演会のお知らせ 』 と 『 支援活動のお願い 』

社会部（文責：R.A）

最貧国のひとつ中央アフリカ共和国のエイズ患者・エイズ孤児・栄養失調児・生活弱者を救うために活動されている長崎大学医学部保健学科教授の徳永端子さん（赤羽教会所属）の講演会とコンサートが今年の 10 月 29 日（日）ミサ後にあります。

徳永さんは、コンゴ民主共和国（旧ザイール）・エチオピア・中央アフリカ共和国とアフリカの貧困・病から人々を救うための 30 年間に渡る活動で、1992 年 第 11 回「読売女性ヒューマンドキュメンタリー大賞」、2002 年 第 14 回「毎日国際交流賞」、2005 年には日本では 3 人目の「フローレンス・ナイチンゲール賞」を受賞されました。特にエイズのことを「音のない戦争」と呼び、「戦争で何人死んだ」とニュースになりますが、エイズで何人死んだとはニュースになりません。しかし、世界全体で 4000 万人の感染者がいて、年間約 310 万人がエイズで死に、その中の 70%、約 240 万人がアフリカの人達です。エイズが拡大するのは「貧困です」と言われます。

1993 年にはエイズ感染拡大防止を目指して受賞の賞金を基に「NGO アフリカ友の会」を設立、診療所や栄養失調児センターを開設し、正しい知識と予防教育等の支援を続けています。 そして、皆さんにアフリカの現状をもっと知ってもらいたい、世界に起こっている問題に対して、私たち一人一人が何をすべきかを考えて欲しいと言われています。

幟町教会運営委員会でも「アフリカ友の会」を支援することになり、社会部では講演会のお手伝いをすることになりました。

また、活動支援として、下記のものを集める事になりました。

皆様のご協力、よろしくお願いいたします。

① 切手（未使用・使用済は回り 1 ㎝残して切る）
② テレホンカード（未使用・使用済・残金があるもの）
③ バスカード（未使用・使用済・残金があるもの）
④ 書き損じハガキ

※ カトリック会館エントランスホールの公衆電話台横に置いてある「アフリカ友の会」の箱の中にお入れ下さい。

運営委員会からのお知らせ

- 運営委員会を中心に市民クリスマス実行委員会立ち上げ
- 幟町信徒納涼大会は、8 月 26 日（土）18：30～
- 維持費の袋について、運営委員会から一任されている幹事会が、とりあえず今後の検討資料とするため、次のようなアンケートをとることになりました。ご協力をお願いします。
  - 維持費の袋のやり取りは、現状のままでよい。
  - 維持費は郵便振込みにして欲しい。
  - 納入金額を維持費の袋に記入しないで欲しい。
- 広島キリシタン殉教者祈念祭運営委員会委員に幟町教会からは 0 氏を選出
- 9 月の釜山教区とのサッカー親善試合による寄付のお願い